



広島医療生活協同組合

新型コロナウイルス対策本部

ニュース No. 25号

2020年8月19日発行

連絡先 本部・役員室

☎082-879-6893

広島共立病院が実施している8つの「院内感染予防策」について紹介します。

地域の皆様からの心温まる励ましのお言葉や感染対策物資のご支援に感謝申し上げます

8月に入り、新型コロナウイルス感染は再び猛威を振るい、4月～5月頃の第一波とは違う新たな局面を迎えました。大都市部の陽性者累計数は大きく増加しており、その勢いは全国各地まで普及し、40前後の都道府県では毎日のように新規陽性者が判明しています。

日本全体で感染者数は5万人を超え、お隣の島根県内でも高校サッカー部員等のクラスターが発生するなど130人を超える感染者が発生し、広島県でも感染者数は累計で400人を超えるなど感染拡大が広がっています。(8/17現在)

今こそ、国や自治体と、地域組合員（住民）と医療機関や介護事業所などが力を結集して感染拡大に歯止めをかけていく事が重要になります。今回のニュースでは、広島共立病院の8つの院内感染対策について紹介します。



その1 病院入り口で行う発熱トリージと感染対策の呼びかけ（8時～18時）

病院入り口で行う発熱トリージと感染対策の呼びかけ（8時～18時まで）では、全ての方にサーモグラフィーによる発熱チェックとアルコール手指消毒、マスク着用の呼びかけを継続しています。

時間外受付でも同様にお声かけしています。



その2 診療エリアでは、感染症の疑いや熱や咳など症状がある方を区分

診療エリアでは、感染疑いや、熱や咳などの症状がある方の待合や診療室を区分し、感染エリアなど動線区分も分け患者様同士の接触を最小限にし、院内で感染の機会を作らない環境を工夫しています。

その3 入院患者様に手指衛生とマスク着用、換気のご協力依頼

入院患者様にはトイレ後や食事前の手洗いの徹底、人との接触時にはアルコールによる手指消毒。人と会話をする時にはマスクの着用のご協力。2時間ごとに窓を開放し喚起を徹底。入院された事を機会に手洗い方法などの実際を感染管理認定看護師からお伝えさせていただいています。



その4 職員による感染危険場所のアルコール清拭

職員による1~2時間ごとの感染危険箇所（接触部）のアルコールによる清拭を実施。手すり・ドアの取手・トイレ内など、不特定多数が接触する部分の環境衛生を強化しています。

その5 職員の健康管理と感染予防の為の様々な行動変容（周知徹底を呼びかける）

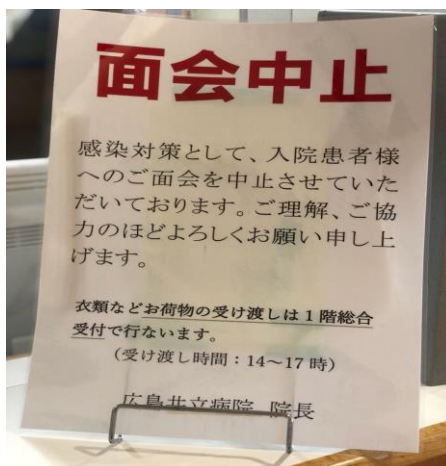
日頃の健康管理の強化、出勤前の検温、体調不良時は休務、3密を避けた行動、不要不急の外出自粛、大人数の会食等を自粛、研修会や会議などはネットを活用など感染予防策の感度を更に強化して対応しています。

その6 業務中の感染対策の強化

業務分担の工夫（外来・病棟など業務場所を分けた人員配置）病院内ではマスクを着用。アルコールによる手指消毒の徹底。必要に応じてフェイスシールドを装着。受付などのカウンターにアクリル板等を設置し飛沫感染を防いでいます。

その7 入院患者様への面会中止のご協力など

広島市内の感染拡大が収まるまでの間、しばらく入院患者様への面会中止のご協力をお願いしています。お荷物等受け渡し窓口は総合受付にて（14時～17時）。面会中止に伴いテレビ電話を活用したオンライン面会を7月20日から開始しました。お電話又は総合案内で予約して頂きます（オンライン面会：平日14時～16時・15分以内）



その8 正しい情報・知識に基づいた冷静な行動をとる。

職員は院内通達を厳守し、正しい情報・知識を入手して、それに基づいた冷静な行動をとる事を心がけています。また風評被害を防止すると共に、職員のメンタルヘルスケアにも配慮しお互いを思いやるワンチームとなって協力体制を強化しています。一人ひとりの日常的な感染予防策への心掛けが、院内感染予防の最大のポイントとなります。

※広島共立病院のホームページでも感染症対策について表示しています。感染対策に関するご相談等はホームページ内のお問合せコーナーを是非ご利用ください。



まだまだ暑い日が続きます。感染症対策と熱中症対策を十分に実施して、過酷な今年の夏を乗り越えましょう！